

## 令和7年度 授業改善プラン

地域名	東上総教育事務所	学校名	長柄町立長柄中学校
-----	----------	-----	-----------

### 1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果から

- 英語科の授業に関する生徒質問調査において、全国平均との差が大きくなっている。「原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていた」、「スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた」、「自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていた」について、肯定的な回答が全国平均よりも低い結果となっている。
  - 自分の考えや気持ちなどを表現する場面を、段階的・継続的に設定する必要がある。
- 国語、数学の調査結果では、全体的に正答率が全国・県平均よりも下回っている。問題形式の「記述式」は無解答率が高く、正答率が低い。
  - 基礎学力を定着させる。
  - 「何を問われているのか、問題を捉える力」、「思考の過程を振り返り、自分の言葉でまとめたり、表現したりする力」を伸ばす。

### 2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- ICT機器の活用等による教材や学習活動を研究することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実につながり、基礎学力の定着や主体的に学ぶ姿勢が身に付くであろう。
- 『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』を活用した授業改善を行い、「まとめあげる」場面を効果的に設定することで、学んだことを生かして自分の言葉で学習のまとめを書いたり、自分の考えを表現したりすることができるであろう。

### 3. 具体的な実践

<全教科での実践>

- 理論研修での学びを全教科で授業改善につなげた。さらに、指導主事を招聘した検証授業を実施した。
  - ICT機器で様々なツールを活用した学習活動を取り入れ、『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した授業を実践した。
- <英語科における実践>
- 全国学力・学習状況調査について、英語科に関する質問調査を実施した。今後経年変化を見取る。
  - 「オンライン英語教育プラットフォーム」を活用し、音読課題・ライティング課題・プレゼン課題・やりとり課題に取り組みさせた。
  - Backward Designで授業計画を立て、単元のはじめにGoalを提示することで学習の見通しをもたせた。振り返りにおいて、言語材料の振り返り(CAN-DOリスト)と教科書本文の振り返り

返り (KWL Chart) を実施した。特に、KWL Chart では、目的や興味を喚起し、思考の過程を可視化して明確にすることで、学習内容の定着を図った。

- Input から Output、Activity から Task を意識して、段階的・継続的に言語材料を身に付け自分の考えを表現する場面を設定した。
- 「子供に委ねる」「子供を見取る」活動を通して、学びの過程にフィードバックを取り入れ、「思考し、判断して表現する力」や「自己調整する力」を向上させた。

#### 4. 成果

- 全職員が I C T 機器の活用等による教材や学習活動を研究し、授業改善に取り組んだ。
- T 2 や A L T のおかげで、生徒一人一人の発話量が増え、生徒へのフィードバックもその場でできた。
- オンライン英語教育プラットフォームの活用により、何をどのように練習したらよいかが明確になり、自ら粘り強く取り組む姿が見られた。
- Backward Design を意識した授業を実践することで、生徒が自分の考えを表現する場면을意図的に設定することができ、表現力の育成につながった。

#### ◆担当指導主事から

- 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、全教科において I C T を効果的に活用し、『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラムや「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る研究を行い、授業改善に関わる取組を学校全体で組織的に行った。英語科ではオンライン英語教育プラットフォームを効果的に活用したり、生徒が自らの学習を調整したりする姿が見られた。また、Backward Design を意識した授業を行い、学習のゴールを明確にすることで、生徒が主体的に表現する姿が見られた。